

学位論文審査結果の要旨

所 属	乙 三重大学大学院医学研究科 (内科系内科学Ⅱ専攻)	氏 名	山下 芳 樹
審 査 委 員	主 査 島 岡 要 副 査 野 阪 哲 哉 副 査 駒 田 美 弘		
<p>(学位論文審査結果の要旨)</p> <p>Elevated plasma levels of soluble platelet glycoprotein VI (GPVI) in patients with thrombotic microangiopathy</p> <p>著者らは論文において下記の内容を述べている。</p> <p>本研究では、1990年4月1日から2012年3月31日までに三重大学病院で診断されたTMA (thrombotic microangiopathy) 患者70例(女性37例、男性33例、年齢中央値55歳)の血漿sGPVI (soluble glycoprotein VI) 値、ADAMTS13活性、VWF (von willebrand factor) 値、VWFpp (von willebrand factor propeptide) 値を測定し、健常人ボランティア40名、非血栓症患者46例、術後患者15例、播種性血管内凝固症候群(DIC)患者13例と比較した。TMA患者の内わけは、再発と家族歴を有するatypical HUS患者(aHUS群)6例、骨髄移植後のTMA患者(TMA-H群)5例、ADAMTS13活性が10%未満のADAMTS13関連TMA患者(TMA-A群)27例、その他のTMA患者(TMA-O群)32例であった。</p> <p>血漿sGPVI値は非血栓症患者と比べて、術後患者、TMA患者およびDIC患者で有意に高値であった。TMA群での検討では、血漿sGPVI値はaHUS群やTMA-H群と比べて、TMA-O群で有意に高値であった。また、血漿sGPVI値はTMA治療前と比べて、血漿交換後有意に低下した。</p> <p>TMAの予後とバイオマーカー値との関連についての検討では、VWFpp値は生存群に比べて非生存群で有意に高値であったが、血漿sGPVI値ならびにADAMTS13活性、VWF値、VWFpp/VWF比は両群間に有意な差を認めなかった。血漿sGPVI値は、ADAMTS13活性、VWF値、VWFpp値、VWFpp/VWF比ならびに血漿Thrombomodulin値のいずれとも、相関を認めなかった。血漿sGPVI値と血小板数の間には、明らかな相関は認めなかった。</p> <p>本研究により、血漿sGPVI値は術後患者、TMA患者ならびにDIC患者など、血小板活性化状態で高値となることが示された。また、血漿sGPVI値はTMAの診断と病態の把握に有用であると考えられた。これらの点から、本研究は学術上極めて有用であり、学位論文として価値あるものとして認めた。</p> <p>Thrombosis Research 第133巻 P.440・P.444 2014年3月掲載</p> <p>Yoshiki Yamashita, Katsuki Naito, Hideo Wada, Makoto Ikejiri, Takeshi Matsumoto, Koshi Ohishi, Yoshitaka Hosaka, Masakatsu Nishikawa, Naoyuki Katayama</p>			